

護老人保健施設に入所する高齢者から、子どもたちと触れ合う機会を持ちたいという要望が出されたので、これに応えて交流する機会を設けている。夏祭りやハロウィンなどの保育施設の行事を地元の人たちにも開放し、地元への定着を図っている。

保育施設が地元に知られるようになるにつれ、入所希望の声が多く寄せられるようになったが、現在、定員が常に充足しているため地元の子どもを受け入れることができない。一方、地域社会への貢献として実施している病児保育事業は、市にパンフレットを置くなどして周知に努めてきたが、利用者は低調である。



夏まつり



高齢者と子どもたちの交流

### ●保育士の確保・定着

園長と事務長は、サイトウ・メディカルの取締役と交流があった人に引き受けもらった。園長は認可保育所で副園長の経験と28年の保育経験を持ち、事務長は前職で企業主導型保育事業の立ち上げに関わった人である。保育士は園長のネットワークを活用して、経験豊かな人を採用した。

人員は、園長、保育士、専任病後児看護師、栄養士兼調理員、専任連携推進員の13人体制である。保育施設開設時は保育士8人全員が13年以上の保育経験を持ち、そのうち1人は主任経験者でかつ准看護師資格保有者の体制であった。その後、家庭の事情で3人が退職し、代わりに経験5年と3年の保育士、国立研究開発法人国立成育医療研究センターの小児集中治療室で看護経験のある看護師を迎えた。

保育士はじめとする職員には、病気やストレスなどに対するサポート体制を整えている。法人グループのカウンセラーへの相談や、独立行政法人労働者健康安全機構が実施している治療と仕事の両立支援のための両立支援コーディネーター研修を受講した職員の配置などである。

### ●利用者の確保

保育施設開設時には、法人グループの施設に保育施設のポスターを掲示した。人事関係の担当者が従業員に保育施設開設の案内を配布し、保育施設開設の約2か月前に従業員と保育施設に関心のある人を対象に説明会を開催したところ、従業員のほぼ全員が参加した。

現在、求職希望者、新人社員、育休明けの従業員は、いつでも保育施設を見学できるようにしている。また、従業員と共同利用先の従業員には、認可保育所の申請が始まる10月頃までに、保育施設への入所希望者を募り、入所の可否を事前に通知する対応を取っている。

保育施設では、豊富な経験を持つ保育士や小児の救急救命の経験を持つ看護師を採用し、保護者からのどのような相談にも対応することができている。このような体制は利用者の確保に大いに役立っている。

### ●企業の特色を活かした取組み

サイトウ・メディカルは配食事業などで食品に携わっている。そのため、食事づくりのノウハウを活かした安全な食材と子どもの成長に配慮した手づくりの食にこだわっている。オープンには食材のうまいや水分を逃すことなく調理が行えるスチームコンベクションオーブンを導入し、食材そのものの味を活かした給食を提供している。

また、法人グループ内に病院や介護老人保健施設があり、施設利用者との交流やハロウィンパレードで病院を訪問したりするなど、施設を活用した行事を行っている。

## 保育内容

### ●保育の質（専門性の向上）

保育の質を維持、向上するため、新入社員研修をはじめ人材育成のための研修の受講を重視している。新入社員研修では、①コンプライアンス、②顧客満足、③自己啓発（知識から見識へ・向上心）に関して法人グループが求める職員の心構えを習得してもらっている。また、情報管理規程の概要、防災設備・避難体制・感染防止などの基本となるものについて学んでもらっている。

外部研修では、県や市、下関市医師会、一般社団法人日本こども育成協議会などが主催する研修に参加している。県主催の研修として、子育て支援員研修、認可外保育施設研修、病児・病後児保育研修会があり、事前に研修の案内をもらい、全ての研修に参加するようにしている。市主催の研修では、事業所内保育施設等保育従事者研修に参加した。その他、メンタルヘルス対策、アンガーマネジメント、喫煙による健康への影響、自分の気持ちや考えをまっすぐに表現できるやり方など、多岐に渡るテーマで行っている山口産業保健総合支援センター主催の研修会にも積極的に参加している。

保育士全員が外部研修に参加することは難しいため、研修に参加した職員には毎月実施する職員会議で研修内容を発表してもらい、保育士全員で研修内容を情報共有するようにしている。

### ●安全の確保

避難訓練を毎月行うほか、市の消防局に本来は30人以下の施設は対象外となる消防訓練を指導してもらっている。保育施設に隣接する介護老人保健施設に、災害時の1次避難先、津波の際の避難先、緊急時の応援などをお願いし、承諾を得ている。

保育施設のハード面での安全対策では、玄関にIC電子カードキーを導入したり、防犯カメラ8台、警備会社と契約して緊急通報ボタンを設置したりしている。各部屋のドア・窓などに指詰め防止を施し、園庭に人工芝や弾力性のある柵を取り付け、また、うつ伏せに寝かせないことを徹底し、午睡用のベッドにはメッシュベッドを使っている。

ソフト面では、危険箇所・時間帯、注意すべき状況などを各職員がヒヤリハット集や事故対応マニュアルとしてまとめ、職員全体で共有し、対応の徹底を図ってい



消防訓練



消防訓練